


















2026年 しぶやおすすめの本50 小3・4年リスト

表紙をクリックすると本がどこの図書館にあるかわかります。予約もできます。







* は新しく選ばれた本です







	書名(小3・4向)	著者	内容紹介
1	 青い鳥	メーテルリンク	クリスマス・イブの夜。貧しいきこりの兄妹(きょうだい)、チルチルとミチルは、ふしぎな妖精(ようせい)のおばあさんに「青い鳥を探しにいてくれ。」とたのまれました。「夜の城」「幸福の館」「未来の王国」……。光の精や、犬や猫たちとともにめぐる冒険(ぼうけん)の旅で、チルチルとミチルは青い鳥を見つけることができるのでしょうか？
2	 あかりをけして	アーサー・ガイサート	くらいとこわくてねむれないコブタ。でもパパとママは8時にはあかりをけしてって言う。あかりをけして、ねむってしまってからくらくなればいいのに。そうだ、くふうしてみよう！せっけいずを作り、ハサミやミノやボールなど、たくさん物を使って…できた！
3	 石たちの声がきこえる	マーグリート・ルアーズ	この本の絵はシリア人のニザールさんが石を組み合わせて作っています。シリアでは戦争(せんそう)のためにおおくの人が難民(なんみん)として他の国へにげていきました。自分の国からにげなくてはいけないかなしいおはなし。石の絵から人間のよろこびやかなしみがつつたわってきます。
4	 いろのかけらのしま	イ ミヨンエ	ぼくの住んでいるしまには、たくさん色があふれています。色は川をながれてやってきたり、なみにのっておしよせてきたり。色がふえるにつれて、ぼくのだいすきな魚たちがへっていきような気がするよ。「色」とは、いったい何なのでしょう？
5	 歌がにがてな人魚	ルイス・スロボドキン	人魚(にんぎょ)と言ったら髪(かみ)が金色で、甘くすんだ声で歌をうたうと思うでしょう？ 勿論(もちろん) そうなのですが、中に一人だけ髪が赤くて、歌が苦手(にがて)な人魚がいました。あまりにひどい歌声なので、いつもは皆と一緒に歌うことができません。ところが、ある日、大事件(だいじけん)がおきそうになったのです。そして、歌のにがてな人魚のそのひどい歌声が、みんなを助けることになりました。苦手なことでも素敵(すてき)なことになります。







	書名(小3・4向)	著者	内容紹介
6	 絵くんとことばくん	天野 祐吉	おこづかいがもっとほしい！そこでぼくは、おこづかいアップをうったえるポスターを作ることにした。するとぼくの頭の中で(絵)とくことば)が会話(かいわ)をはじめて…。おこづかいをあげたくなるのは、どんなポスター？みんなもさんこうになるかもね。
7	 おそうじをおぼえたがらないリスのゲルランゲ	ジャンヌ・ロッシュ＝マゾン	「おそうじだけはおぼえたくありません！」おそうじがきらいで家をおいだされてしまった、リスのゲルランゲ。マヌケなオオカミ、ごさかしいキツネ、おひとよしのアナグマ、やさしいフクロウたちを、げんきいっぱいにふりまわします。あいされしょうずなゲルランゲです。
8	 おどる詩あそぶ詩きこえる詩	編 はせ みつこ	身も心もおどりに出たくなるような詩集(ししゅう)です。子どもが作った詩から言葉使いの名人(めいじん)たちの詩までバラエティーゆたか。『ころころち ぴちくちべちぽ ちてびるば』さあ声に出して音をあじわってみましょう。どんな意味(いみ)かって？本を読むとわかりますよ。
9	 おにたのぼうし	あまん きみこ	節分(せつぶん)の夜、豆まきの音がしない一けん家にとびこんだおにのおにたは、病気の母を看護(かんご)する少女に出会います。
10	 オンネリとアンネリのおうち	マリヤッタ・クレニエミ	オンネリちゃんとアンネリちゃんは大のなかよしです。ふたりは夏休みに「ふたりの小さな女の子のおうち」を買いました。小鳥もいれば、お人形もあるし、お料理のできる小さな台所もあります。ふたりはこのすてきなおうちでくらすことに決めました。(TRCマークより)
11	 かあちゃん取扱説明書	いとう みく	ぼくのかあちゃんは朝からガミガミうるさいし、ケチだし、ぼくが「おいしい」と言うと何日も同じごはんをつくる。とうちゃんは、そんなかあちゃんを「とにかくほめる」のが、うまくあつかうコツだという。ぼくはかあちゃんのあつかい方をマスターするために、かあちゃんのとらあつかい説明書を書きはじめるが…。(TRCマークより)


	書名(小3・4向)	著者	内容紹介
12	 風をつかまえたウィリアム	ウィリアム・カムクワンバ	ウィリアムは目をとじて考えた。家のそばに風車(ふうしゃ)を作ったらどうかな？風がふけば電気が作れるからあかりがつくし、地下から水をくみあげることできる。アフリカのまずしい国マラウイの少年が、手づくりの風力発電(ふうりょくはつでん)に挑戦(ちょうせん)する、実際(じっさい)にあった話。
13	 口で歩く	丘 修三	タチバナさんは、ずっと寝たきりです。でも、暗くなったり、くじけたりはしません。いつも散歩にいきます。特製(とくせい)の車輪(しゃりん)つきのベッドで、道ゆく人に押していってもらうのです。人と人のつながりをあたたかく描いた物語。
14	 こちら『ランドリー新聞』編集部	アンドリュー・クレメンツ	転校生(てんこうせい)のカーラは、自分で作った「ランドリー新聞」を教室にはりました。記事(きじ)の中には担任(たんにん)のラーソン先生を批判(ひはん)する内容(ないよう)も。クラスのみんなはおもしろがりましたが、もちろんラーソン先生はおこりだします。でもカーラは引きさがりません。
15	 このあとどうしちやおう	ヨシタケシンスケ	死んだおじいちゃんのへやをかたづけしていたら、ベッドの下から「このあとどうしちやおう」ノートがでてきた。「このあとのよてい」「てんごくにいくときのかっこう」「うまれかわったらなりたいもの」…おじいちゃん、こんなことを考えていたんだ。
16	 * サメのイエニー	リーサ・ルンドマルク	小学2年生のイエニーは、クラスでいちばんおとなしい。大声を出すのも、手をあげるのもきらい。サメのようにひとりで静(しず)かに本を読んでいたいのに、先生もみんなもわかってくれません。ある日、水族館(すいぞくかん)で出会ったサメに、イエニーは悩(なや)みを打(う)ち明(あ)けますが…。
17	 シェフィーがいちばん	カート・フランケン	シェフィーとプフとポーヒーは、エマの家に暮(く)す三匹(さんびき)のテリア。エマとは大(お)のなかよしです。ところが、ある日、ヘルダーという名のシェパードがやって来(き)てから、シェフィーは気が気(き)ではありません。ヘルダーが初めて来たその日から、エマがヘルダーを友(とも)だちと呼(よ)んだからです…。かわいくて、あどけないシェフィーの気持(きもち)ちはエマに届(と)くのでしょうか？オランダから届(と)いた珠玉(しゅぎょく)の物語(ものがたり)です。




	書名(小3・4向)	著者	内容紹介
18	 十歳のきみへ九十五歳のわたしから	日野原 重明	よい心の習慣(しゅうかん)を身につけようとしている若いきみたちに、世界の平和(へいわ)を託(たく)したい。寿命(じゅみょう)とはなにか、家族の大切さ、人間とは何かについて、95歳の現役医師(げんえきいし)が10歳の頃の自分を振り返りながら、子ども向けに書いたメッセージ。
19	 ジュリアンはマーメイド	ジェシカ・ラブ	ジュリアンは、でんしゃでおばあちゃんとプールからかえるところ。そこへ、マーメイドのすがたをしたおねえさんたちがのりこんできた。マーメイドがだいすきなジュリアンが「きれいだなあ」とみとれていると、「ほら、おりのよ」とおばあちゃんからこえをかけられた。ジュリアンは、おばあちゃんに「ほくもマーメイドなんだ」とうちあけ…。(TRCマークより)
20	 ジョナスのかさ	ジョシュ・クルート	1750年当時(とうじ)、イギリス紳士(しんし)がかさをもちあるくのは、ありえないことだと考えられていた。でも、ジョナス・ハンウェイはちがった。ある日、雨がふりだすと、ジョナスがクイーンスクエアの家から外へと一歩ふみだした…かささして！
21	 * セイギのミカタ	佐藤 まどか	ぼくは、はずかしいと顔がまっかになる。いくら止めようと思っても、かっさに赤くなっちゃうんだ。4年生になった初日、人気者の大我(たいが)に「すげーっ、木下(きのした)の顔、まっかっかだぞ!」とからかわれた。でも、そんなとき、もっとめんどろなヤツがやってきて…。
22	 * せかいいちのおおどろぼう	みき つきみ	ひまでたいくつなせかいいちのおおどろぼうのいえに、せかいいちびんぼうなむらにすむおんこの、ミラがやってきました。ミラが「わたしのむらのびんぼうもぬすめる?」ときくと、せかいいちのおおどろぼうは「びんぼうをぬすむなんて、あさめしまえのこんこんちだ」といって…。
23	 せかいいちのねこ	ヒグチ ユウコ	ぼくは、ぬいぐるみのねこのニャンコ。なまえをつけてくれた男の子とずっとなかよしでいるにはどうすればいいか、いつもかんがえているの。そうしたら、ともだちが「ねこのヒゲをあつめて、からだのワタといっしょにすれば、ねこにちかくなるよ」とおしえてくれて…。(TRCマークより)

	書名(小3・4向)	著者	内容紹介
24	 世界でいちばんやかましい音	ベンジャミン・エルキン	せかいでいちばんやかましいまち「ガヤガヤ」の王子さま「ギャオギャオ」はやかましいおとがだいすき。たんじょうびにはいちばんやかましいおとがききたいと、せかいじゅうにおしらせをだしました。はたしてたんじょうびのおいわいは、どうなったのでしょうか。
25	 セロひきのゴーシュ	宮沢 賢治	町の活動写真館(かつどうしゃしんかん)でセロを弾く係のゴーシュは、練習(れんしゅう)してもセロをうまく弾けません。突然(とつぜん)現れた動物たちの助けをかりて、ゴーシュはセロの練習(れんしゅう)に没頭(ぼつとう)します。たった10日間の毎日(まいにち)の練習によって、格段(かくだん)に腕(うで)をあげたゴーシュの成長(せいちょう)はすさまじいものです。
26	 *先生、しゅくだいわずれました	山本 悦子	4年2組のたんになのえりこ先生は、毎日しゅくだいを出す。ある日、しゅくだいをわすれたゆうすけが、「おながいがいたくて…」とウソをつく。えりこ先生が「ウソをつくならもっと上手につかなくちゃ」と言った。すると、次の日から子どもたちは、しゅくだいができなかったわけを考えてきて発表することに…。
27	 空を飛んだ男の子のはなし	サリー・ガードナー	トーマス・トップの誕生日(たんじょうび)のねがいごとは「空をとべるようになること」。そのねがいごとを不思議(ふしぎ)なようせいがかなえてくれます。空をとぶって最高(さいこう)！子どもたちはわくわく！でも大人は、トーマスが目の前でとんでも、現実(げんじつ)だとはしんじてくれません。
28	 *それからぼくはひとりで歩く	アリシア・モリーナ	朝の音がきこえる。きょう1日が、ゆっくりと動(うご)きだす。ハイメは11歳(さい)、新しい学校のクラスに視覚障害(しかくしょうがい)がある子は自分だけ。ある日、気になるクラスメートの子の前で見栄(みえ)をはって、はじめてひとりでバスに乗って帰ることになり…。目の見えない男の子ハイメの、ささやかで大きな冒険(ぼうけん)の物語。
29	 たべられるしよぶつ	森谷 憲	「たべられるしよぶつ」ってなんでしょう？それは、わたしたちのいちばんみちかにある、やさいです。小さいたねから、食べられるようになるまで、ひとつひとつのやさいが、どのように育つのか、みひらき1ページに、わかりやすくしょうかいされています。

	書名(小3・4向)	著者	内容紹介
30	 つなのうえのミレット	エミリー・アーノルド・マツカリー	19世紀のパリ。旅芸人のペリーニが綱渡(つなわた)りするのを見た少女ミレットは、自分にも教えてほしいとペリーニに頼む。最初は、洗っていたペリーニだが、ミレットの情熱(じょうねつ)に負けて教えることになり、いつか二人の間には友情(めば)が芽生(え)える…。
31	 天使のいる教室	宮川 ひろ	1年2組サトパン先生のクラスにあきこちゃんは、むずかしい病気(びょうき)で、なかなか学校に来られません。でもあきこちゃんは、学校に来るのがたのしくてしょうがないのです。クラスみんなにとって、あかるいあきこちゃんは天使(てんし)でした。
32	 * 読書バリアフリー	読書工房	布(ぬの)の絵本、LLブックなど、「読みやすさ」や「わかりやすさ」を必要とする人の特性(とくせい)やニーズを意識(いしき)した本、バリアフリー図書を紹介(しょうかい)。読書バリアフリーという観点を通して、自分にあった読書のカチを選(えら)ぶことは合理的配慮(はいりょ)の一つであることを伝える。
33	 時計づくりのジョニー	エドワード・アーディゾーニ	ジョニーはもの作りが大好きです。「大時計の作り方」という本を読むうちに、自分でも作りたくなってきます。周りのみんなから「できっこない!」と言われるのですが…。好きなことに熱中(ねっちゅう)する姿に子どもたちの共感(きょうかん)の声が届(と)いています。
34	 図書館に児童室(こどもむろ)ができた日	ジャン・ピンボロー	昔、アメリカの小さな町にアンという女の子がいました。子どもが図書館(としよかん)に入ることさえできない時代(じだい)です。でも、自分の考えをしっかりと持ち、本が大好きだったアンは、やがて図書館の専門(せんもん)の勉強(べんきょう)をはじめます。
35	 ともだち	谷川 俊太郎	ともだちとけんかした日、何か心の中がおもくなる。ともだちといっしょなら、楽しいことが2倍になる。一人じゃできないことも、ともだちと力をあわせれば、きっとできる。ともだちっていいよね。

	書名(小3・4向)	著者	内容紹介
36	 どんなかんじかなあ	中山 千夏	目が見えないって、どんなかんじかなあ。考えてみたことはある？ためしてみたことはある？ひろくんは、ためしてみた。するとびっくり！なんてたくさん、いろいろな音！見えないってすごいんだって思ったよ。
37	 ネコのアリステレス	ディック・キング＝スミス	ネコには9つの命があるそうです。白ネコのアリステレスはそのことを知らずに、魔女(まじょ)にもらわれていきました。こわいもの知らずのアリステレスはぼうけんをくりかえし、命はひとつ、またひとつとへってゆきます。
38	 はじまりはたき火	まつむら ゆりこ	遠い遠い昔、人間は火をつかいはじめ、火のおかげでたくさんの発明(はつめい)をしてきました。火とともにべんりなくらしをつづけてきた私たち。でも、火を使うということは、地球(ちきゅう)が長い年月をかけてはぐくんできたかぎりある資源(しげん)を使うということなのです。
39	 ひげねずみくんへ	アン・ホワイトヘッド・ナグダ	「ねずみになったつもりで2年生に手紙(てがみ)を書けだなんて…ばかみたい」と4年生のジェニーは思いました。がんばって書いた手紙に返ってきたのは、不思議な手紙でした。どんな文通相手(ぶんつうあいて)なのでしょうか？
40	 百まいのドレス	エレナー・エステス	いつも同じ服を着ているワンダが「あたし、ドレスを100まい持ってる」と言っても、だれも信じませんでした…。どんなところでも、どんな人にも起こりうる差別(さべつ)の問題を、むずかしい言葉を使わずに描いた、アメリカの名作。
41	 ふしぎなともだち	たじま ゆきひこ	島の小学校に転校してきたゆうすけ。教室には、いつも教室を出て行ってしまう自閉症(じへいしょう)のやっくんがいた。やっくとゆうすけの友情を通し、共に生きることの大切さをえがく絵本。

	書名(小3・4向)	著者	内容紹介
42	 * ふみきりペンギン	おくはら ゆめ	ふみきりで、話をしているペンギンを見たゆうと。白いヘビのうさをたしかめたいり。鏡のなかにだけ見えるライオンと出会ったななこ。天気うらないをするげたフクロウが見えるそうすけ。実は4人は、同じ小学校に通っていて…。それぞれの子もたちの自分らしさを肯定(こうてい)する、やさしい物語。
43	 フンころがさず	大塚 健太	どうぶつのフンをころがすから「ふんころがし」。だけど、みんなはへんなやつだと言う。そこで思いついた！フンをころがすなんてやめて、「フんころがさず」になってやる。だけど、それって本当のほくなのかな？
44	 北極と南極の「へえ〜」くらべてわかる地球のこと	中山 由美	この本を書いた中山さんは、新聞記者(しんぶんきしゃ)として北極と南極で取材(しゅざい)をしました。北極と南極ってどちらがうの？南極はどこの国のものだと思う？北極と南極から見た地球(ちきゅう)の未来(みらい)とは？そのこたえがこの本の中にあります。
45	 ぼっこ	富安 陽子	大阪の山の中の稲生という町に一人で住んでいたおばあちゃんが死んで、その家に引っ越すことになった茂。そこには不思議な少年ぼっこが住んでいて、なにくれとなく不慣(ふな)れな生活にとまどう茂の世話をやくのだった。
46	 *ほんとうにともだち？	如月 かずさ	たぬきのたんくんが、くまのまあくんの家にあそびにきました。ふたりともねんどあそびにむちゅうになって、さっきからひとこともしゃべりません。ふたりがいっしょにあそぶときは、いつもこんなふうにしずかです。たんくんがかえったあと、「ふたりってほんとにともだちなの？」とおねえちゃんにきかれ、まあくんはかんがえこんでしまい…。
47	 みしのたくかにと	松岡 享子	ふとっちょおばさんが、なんのたねかわからないたねをにわにまきました。どんなめがでてくるのか「とにかくたのしみ」でしたが、このたねをまいてほんとうによかった、とおもえるたのしいできごとがありましたよ。

	書名(小3・4向)	著者	内容紹介
48	 <p>* もうじきたべられるぼく</p>	はせがわ ゆうじ	ぼくは、ふとつたうし。もうじき、「ぎゅうにく」として売られて、にんげんにたべられるのだそうだ。だから、最後(さいご)にひと目だけ、おかあさんに会いに行くことにした。リュックをしょって、でんしゃにのって、ぼくの生まれた牧場(ぼくじょう)につくと、とおくにやさしいおかあさんがいて…。
49	 <p>ものぐさトミー</p>	ペーン・デュボア	なまけ者のトミーは、電気じかけの家に住んでいます。朝ベッドから起きるのも、お風呂に入るのも、服を着るのも、食べるのも歯をみがくのも、すべて機械(きかい)じかけ。ところがある嵐の日、停電(ていでん)になって……
50	 <p>野鳥のレストラン</p>	森下 英美子	鳥たちはおなかに食べ物をためられないのでいつも腹(はら)ペコです。さあ、外に出て、耳をすましてみましよう。鳥たちが、食べ物を探(さが)していたり、何か食べていませんか?花のみつを吸(す)う鳥たち、毒草(どくそ)の実を食べる鳥たちなど、鳥たちの食事のようすを写真でくわしく解説(かいせつ)します。(TRCマークより)